

フェアレンス コーナー フェアトレードと はなにか

荻野洋司

一年ほど前から、メディアにこの「フェアトレード」という言葉がよく登場するようになった。これは英語の Fair Trade をそのままカタカナにしたものであるが、この英語にはふたつの意味がある。一つは「公正貿易」を意味し、他方は「もう一つの貿易とかオルタナティブ」とか「民衆貿易」を意味する場合である。

前者は国際貿易制度の中で貿易ルールに関して使われる。メディアでの話題は後者で、先進国での消費者への直接販売を通して開発途上国の生産者の収入と生活の安定を目指す活動に関して言われる。この意味では「フェアトレード運動」とするのが正確で、そのように使われていることもあるが、習慣的に「フェアトレード」とのみ称することが多い。この運動の歴史は古い。約六〇年前、プエルトリコの貧しい女性の手縫いの刺繍製品を販売するという、米国のメソ派教会の団体(MCC)による慈善活動に始まるとされる。また欧州での始まりは、一九五〇年代イギリスでNGOのオックス

ファムによる香港の中国人難民の手工食品販売や六〇年代オランダでの砂糖や手工芸品を扱うフェアトレード貿易団体の設立などに遡れる。

この運動は九〇年代以降になるとビジネス志向が強まり、大企業や生協も参入、また政府も途上国への開発援助の一形態として支援するなど、運動の参加組織や運動の定義や理念、目的や形態も多様化し、取扱う商品も手工芸品のほか、コーヒー、茶、ココア、バナナ、花などの一次産品や綿製品、家具、サッカーボールなどの工業製品まで品目は二〇〇〇に達するほどになり、当初の慈善事業から著しい変貌を遂げるようになった。

他方、日本でもこの運動と呼べる活動は七〇年代から始まっているが、欧米諸国と比較してその規模や認知度は遙かに低いのが現状である(イギリスでは八〇%と言われる認知度であるが、チヨコレボ実行委員会が昨年一月日本で最初に全国規模で行ったフェアトレード認知率調査では、一七・六%という。この結果の速報は <http://www.choco-revo.net/press.php> にある)。

ここではこの運動に関する最近の文献を中心に紹介することにする。まず、国際フェアトレード認証機構(FLO)他共編『これでわかるフェアトレードハンドブック 世界を幸せにする仕組み』(合同出版二〇〇八年。原書は二〇〇六年)。欧州の運動団体のネットワークの四つの組織が、この運動の成功してき

た要因と今後の課題、さらに公正な国際貿易を求める取組みなどを論じたものである。前半はフェアトレードの紹介、国際貿易、生産者、消費者、企業などの一般的事項の章。後半は綿製品、コーヒー、手工芸品と米の各ケーススタディの章から成る。欧州の読者が対象で日本に関する記述はないが、翻訳文は平易である上、写真や図表も見やすい。ハンドブックと言うより、欧州でのこの運動の全体像を知るためのテキストブックであり一読に値する。

さらに、イギリスを中心とした欧州での運動の歴史と展開の様子は、渡辺龍也の論文「フェアトレードの形成と展開」(現代法学)第一四号(二〇〇七年二月)が詳しい(東京経済大学の紀要欄：<http://www.kuac.jp/koho/kyou/denwa.html>)。日本の状況を知るテキストとしては、長坂寿久編著『日本のフェアトレード 世界を変える希望の貿易』(明石書店 二〇〇八年)が良い。四部構成で、全体の半分を占める第一部が入門編で総論、後半が日本での状況を解説した部分。第二部団体編では二の組織が自身の活動を紹介。第三部経営者編はこの商品を扱う八店舗主の体験談。第四部ネットワーク編は運動の情報を提供している五つの組織の話、というように後半分は各組織の実状が把握できる手引き書にもなっている。

また、三浦史子著『フェアトレードを探しに』(スリーエーネットワーク

ク 二〇〇八年)は二〇〇四年末から二〇〇五年にかけ、イギリス、インドやガーナなどでこの運動のシステムがどうなっているのかを現地取材した報告である。歩きながら考え、考えながら歩いたレポートで、読みやすくはないが、カラーもある多数の写真がそれを補っている。

なお、この運動の最近の市場規模に関しては、オランダの運動団体のネットワーク組織(DAWS)による英文報告書(二〇〇八年二月)があり、その日本語の概要が長坂寿久著『世界のフェアトレード市場二〇〇七年』(報告書概説)、『季刊国際貿易と投資』第七四号(二〇〇八年冬)にある(国際貿易投資研究所：<http://www.iti.or.jp/>に全文、また二六ページの報告書原文：<http://www.fair-trade-hub.com/fair-trade-references.html>で見られる)。

また、ノーベル経済学賞受賞者J・スティグリッツ他著『フェアトレード 格差を生まない経済システム』(日本経済新聞社 二〇〇七年。原書二〇〇五年)は、書名からこの運動を扱う図書と誤解されがちであるが、貿易協定に関する理論的・実証的研究書である。国際貿易で途上国の福祉と開発に関する公平な協定を提案しており、それはこの運動の目標の一つでもあるが、運動自体に関して触れている箇所はない。

(おきの ようじ／アジア経済研究所図書館)